

第1回和光ブランド認定推進委員会

日時 平成28年9月16日(金) 10:00～

場所 和光市役所議会棟 第2委員会室

出席 委員

- 1号委員 郭 洋春(立教大学 経済学部教授)
- 1号委員 政所 利子(株玄 代表取締役)
- 2号委員 池田 正(有池田物産 代表取締役)
- 5号委員 安田 栄子(ラマンドール(株) 代表取締役)
- 5号委員 本橋 雅人(株アニバーサリー 代表)
- 6号委員 梅沢 直(公募)

事務局

市民環境部次長兼産業支援課長 深野素明

産業支援課課長補佐兼産業育成支援担当統括 遠藤秀和

産業支援課産業育成支援担当主事 原口真由美

欠席 委員

- 3号委員 深野 靖(あさか野農業協同組合 和光支店)
- 4号委員 須藤 千賀(株ヘソ)

傍聴 0人

1. 開会
2. 委嘱書の交付
3. あいさつ
4. 委員及び事務局紹介
5. 委員長、副委員長の指名
6. 委員長、副委員長あいさつ
7. 議事
 - (1) 和光ブランドについて
 - (2) 認定審査方法について
 - (3) 認定審査会について
 - ・ 10:25～小寺園「梨」「ぶどう」
 - (4) その他
8. 閉会

【議事内容】

5. 委員長、副委員長の指名
委員長に郭委員、副委員長に政所委員を選出
7. 議事
 - (1) 和光ブランドについて

事務局より説明

(2) 認定審査方法について

事務局より説明

(3) 認定審査会について

- ・ 小寺園「梨」「ぶどう」

(申請者より説明)

「梨」

昭和40年代より梨の栽培をはじめ、現在、幸水、彩玉、豊水、新高、の4種類の梨を栽培している。8月のお盆前から収穫がはじまり、幸水、彩玉、豊水、新高に順番に採れる。和光市では、梨・ぶどうと言えば、「小寺園」と言われるほど地域に根付いている。庭先販売をしており、先代のころから50年以上通っているお客さんもある。昭和40年ごろから栽培している。天候や鳥の被害に大きく影響を受け、栽培にはとても手間ひまがかかる。彩玉は、埼玉農林振興センターと和光市が、苗を譲ってくれ接ぎ木の技術を活かして、栽培量を徐々に増やしている。木は40本、収穫量は6トン、都心からのお客様や、元和光市民の方からの需要もある。家族の少人数化による需要に合わせて、梨とブドウの詰め合わせギフトの配送もおこなっている。

加藤牧場から牛糞堆肥、稲わらや剪定した木を木材チップにして、利用していたこともあるが、現在は、有機質肥料を使用している。

25年ほど前から、市内の給食に提供している。やりがいを感じている。

「ぶどう」

巨峰をつくっている。2000平米、木は8本程度。花が咲いてから粒ができるまでの、粒の間引きに手間がかかり、その手間によって、綺麗な逆三角形の形のブドウができる。昔は、何件かブドウ農家があり組合もあったが、いまはうちのみ。手間がかかる事や担い手不足によるものと考え。学校給食にも卸している。多くの子どもに楽しんでもらっている。直売で、対面販売のふれあいを大切にしている。洋菓子店へ卸したり、まちかど販売所で販売するなど、拡大展開している。

(質疑応答)

「梨」

(梅沢委員) 卸先の割合はどの位か。

(小寺さん) 庭先販売が6割、直売所(贈答用含む)が3割、学校給食が1割。

(本橋委員) 4種類合わせた梨で申請するか、品種ごとに申請か。糖度の違いはあるか。

(小寺さん) 4種類をひとつのカテゴリーで申請。梨は12度。彩玉は13度。糖度は1度くらいちがう。

(池田委員) 収穫した梨は、廃棄なく全て販売できているか。廃棄はどの位あるか。売り物になるものは全てさばけているか。

(小寺さん) 売り物になる梨は、全てさばけている。廃棄は、今年は多く2割くらい。少しの傷でも売り物にならなくなってしまう。傷になったものは、購入いただいた方にサービスで分けている。他に、加工品などの展開も考えている。

(政所委員) 都市型農業でこれほどのものを作るのは大変だと推察するが、他にも梨・ぶどうをつくっている農家はないか。オンリーワンなのか。素敵なデザインのチラシは誰がつくっているのか。

(小寺さん) 大きく展開しているのは、うちだけ。チラシは市の職員が少し手伝っている。
(政所委員) これだけのものをつくるのは大変。労働力はどのくらいか。後継者はいるか。
(小寺さん) 家族で栽培している。父と2人。販売は妻も。後継者はいない。技術を引き継ぎたい。
(梅沢委員) 彩玉は、新高よりしまっていておいしい。彩玉は生産の何割をしめるか。
(小寺さん) 彩玉は現在1割ほど。新高の3本の木を1本彩玉に替えようと考えている。埼玉ブランドの彩玉に力を入れたい。

「ぶどう」

(政所副委員長) ぶどう狩りのような観光はできるか。
(小寺さん) 現在は行っていない。将来的には、ぶどう狩りも検討している。都市近郊でぶどう狩りができるのは需要があると思う。
(本橋委員) 種なしぶどうはできるのか。シャインマスカット等はあるのか。事業者としては種なしが良い。
(小寺さん) 人気が高く、なかなか苗木が手に入らなかったが今年、今年、苗が購入できた。5～6年後に収穫できる。巨峰以外にも作ったことがあるが、巨峰はコクがあり良い。ジベレリンという薬剤で種を抜くことができる。
(池田委員) 粒の大きさは苗に影響されるのか。スーパーでは、粒の大きいサイズが目立つ。
(小寺さん) 巨峰は、同じサイズ。一回り大きいとピオーネ、さらに大きいと、ピンポン玉サイズで「富士みのり」と呼ばれている。ジベレリン処理すると、粒が大きく、房が硬めになる。
(梅沢委員) 有機質肥料は何を使っているか。
(小寺さん) ぶどうは使っていない。梨は、梨博士という肥料を使っている。
(政所副委員長) 巨峰＝富士山から名前をとっている。外国人にPRになる。大きさを重視する流れあるが、巨峰の名前を原点帰りして、売り先があるかもしれない。
(安田委員) 和光市に実家があり、小寺園の梨やぶどうで季節を感じている。イチゴ狩りの場所を案内したことが数回ある。ぶどう狩りができたら、市外にも良いPRができるのではないか。

○審査結果の総括○

「梨」

6.5点満点中、4.5点以上で認定に値すると判断する。梨は5.2. 7点で認定に値すると判断した。

「ぶどう」

6.5点満点中、4.5点以上認定に値すると判断する。ぶどうは5.1. 3点で認定に値すると判断した。

(4) その他

(事務局) 次回のスケジュール 10月27日(木) 10:00 予定